
統合失調症になった僕

星野いちろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

統合失調症になった僕

【Nコード】

N3665D

【作者名】

星野いちろう

【あらすじ】

保育園の頃から、高校三年生、浪人生の頃の神の啓示、大学入学後の宗教活動、精神科に入院、大学卒業後、就職したが、退社し、ホムレスになり、現在、ホムヘルパとして活躍中。

自伝史

子供の頃、奈良の保育園に通っていたが、ある時、泣きながら家に帰った。子供ながら仲間に入れずに疎外感があったためである。

小学校は、私立を両親に言われるまま受験し合格した。一年生から英語の授業があり、授業中の態度が悪い為、先生に

「BAD BOY」と言われていた。小学校の頃は、人気者になりたくて、いろいろなギャグを考えたり、面白いことをして周りを笑かせてばかりいた。毎朝、登校する前に、今日は、何をして笑かそうかとそれが楽しみだった。授業中、私語が多かったが、成績は良かった。小四の時、学習塾に入塾し、家でも塾でもスパルタ教育だった。

小学校五年生の12月、母親が胃ガンで亡くなった。ショックを受け無口になってしまった。中学受験は、失敗し市立の中学に入った。そして、小学校の時とは違って変わって、野球部に入り、しごき練習に耐え、中三の頃は、175の70キロ位あった。高校は、硬式野球部のピッチャをやっていた。成績は、良かったが、エースにはなれなかった。クラブ活動が終わり、大学受験に向けて理系のクラスに入り、勉強したが、ちんぷんかんぷんで勉強する気が起きず、このままいくと浪人生になると予感していた。

浪人生

高校二年生の頃、友人に

「尾崎豊」の歌詞のコピを見せてもらい衝撃を受けた。反社会的な言葉に共感した。それから、

「尾崎豊」の情報やCDを集めた。FMで

「街路樹」を聴いた時は、胸をえぐられるような感じがした。

そして、

「尾崎豊」の影響を受け、自分に何かできないだろうか、自分も世のため人の為になることを野望を抱きつつ望んだ。地上天国建設、人類救済という目的であれば、世界征服を企んだとしても構わないと思った。浪人生の夏休みに、N駅前でS会の浄霊を受けた。

その時は、

「大学に入ったらやります。」と断り家に帰った。

それからである。色々なインスピレーションが沸いてきた。神の啓示を受けたような感覚だった。まず、

「日本を一つの家族にする。」

「日本の西の端に行け。」

「そこで、その土地のリダを作れ。」という声が頭の中に聞こえてきた。

それから、色々なことが、頭に浮かんできた。

「太陽は、東から西に沈む。日本の西の端で締めくくりをするんだ。」

「
アインシュタインやヒトラーにも関心を持った。その中でも、
アインシュタインのE=QC²二乗という公式に興味を持った。エネ
ルギとは、意識に光速の二乗をかけたものである。全人類の意識
を結集し地球を救うんだ。そういう発想が閃いた。」

そして、僕は、自分の部屋で毎日祈っていた。西に向かいひれ伏し、

「どうか私の体を使って人を救ってください。どうか人を救う力をお与えください。」毎日、ひたすら祈り続けた。

そして、受験の時期が近付き、下関へ向かった。その一週間前、風邪をひき、ドタン場になって、古典の単語と英単語に山をはり丸暗記した。すると、試験当日、その単語がなんと全て出たのである。しかし、A日程B日程不合格だった僕は、もう一年浪人することを決意していた。ある朝、母親が、大きな封筒を僕に渡し、中身を見ると

「合格」の二文字が書かれていた。

神は、おられた。自分の運命を感じた。

大学生

大学一回生八月十二日、S会の夏期布教の青年が、僕の部屋を訪ねてきて、戸の隙間から浄霊をした。そして、車でS集会所に向かい、車の中では

「尾崎豊」の曲が流れていた。

浪人時代の夢が現実化したのだ。

下関と小倉で手当たり次第に戸別訪問などをして布教活動をした。合宿、夏期布教等、ありとあらゆるものをこなしていき、まず、一人目は、友人を導いた。そして、三年間で約三十名導いた。お金は、父親の仕送りを布施することで父親の出世を願った。そして、地上天国建設、人類救済の同志をひたすら探した。

神を味方にし、どんどん自分の夢は、現実化していった。一人目に導いた友人も共に活動するようになり、二人は、夢をもって輝いていた。駅前で手当たり次第に声をかけ、相手の幸せを祈り、縁のある人は、どんどん入信していった。ここで、僕の信仰の基礎が形成されたと言っても過言ではない。感謝、奉仕、布施と身につけたのである。

そして、K出張所も新築され大きくなった。K島の落慶も行われ、K塔も本部に建てられ、ますます、S会は巨大化していった。

そして、ある時、S会の新聞にSファミリ という言葉が載った。

「これだ」僕が浪人時代に神の啓示を受けた

「日本を家族にする」ということだ。しかし、Sファミリ ということは、S会の信者だけの家族である。僕の夢は、日本人達を家族にしたかったのだ。ズレが生じた。しかし、友人は、S集会所の
リダ となり、僕の目的は果たされたのであった。

謎めいた体験

しかし、僕は、人間関係のストレスから精神分裂病になった。神様は、ここでの修行は、もう終わりと告げたのだ。

幻覚、幻聴の症状が生じた僕は、自分に何が起きたかわからなかった。ただ、ただ、恐怖感に脅えていた。命令されたり、現実ではない何かが見えたりオカルトの世界だった。そんな中、

「尾崎豊」の死亡のニュースをTVで見た。僕が21歳の時だった。思わず近くのコンビニに行き、弁当を二つ買い、焼け食いした。そして、ありったけの金を持ち、東京へ向かった。

はじめての東京をさまよっていると、運送屋の兄ちゃんがついてこいと言ってるようで後ろからついて行った。そして、ビルの中へ入り、また、ビルから出て来ると、警察官が僕を捕まえ、交番へ連れて行った。色々、質問され適当に答えていた。

そして、警察署に連れて行かれ、東京駅から新幹線で実家へ送り返された。

その夜、父親に奈良へ連れて行かれようとした時、ケンカになり、コンビニで僕は、交番へ電話したら警察官が来て、両親と一階で話をしていた。僕は、二階で本を読んでいた。しばらくしてパトカに乗せられ、どこかへ連れて行かれ独房に入れられた。一晩、薄い毛布をかぶり、寝た。朝になると、ご飯と味噌汁が運ばれてきた。結構、おいしかった。

そして、

「出てこい。」と言われ、出ていくと警察署の外に出た。日差しがまぶしかった。パトカに乗せられ、どこかへ連れて行かれた。そこが、精神病院とはわからず、男の看護師に病棟へと連れて行かれた。ある男と話をしていると、突然、詰所から男の看護師がゾロゾロと出てきて、僕を捕まえて紐で身動きとれないように縛り、保護室へ放り込んだ。紐が緩かった為、自分でほどこいて紐を持ち立ちす

くんでいた。話をしていた男と二人で保護観察室に連れて行かれた。両腕、両足縛られオムツを強制的にさせられた。泣きながら、

「ほどいてよう。助けてよう。」と言っていた。

閉鎖病棟の中は、不気味だった。僕に

「殺すぞ。」と言ってくる奴がいた。しかし、全く相手にしなかった。

た。 なんとか、閉鎖病棟に慣れ、しばらくして開放病棟に転棟になり、入院してから半年後、主治医に

「大学を卒業してきなさい。」と言われ退院した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3665d/>

統合失調症になった僕

2010年10月11日11時46分発行